

南浦和中だより

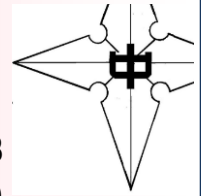
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『やさしい風が吹いたら』

校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一

大学生になってすぐに、高級中華料理店でアルバイトを始めた。店員の制服は全員チャイナ服という本格派だ。勤務日には途中で「まかない（店側が出してくれる食事）」の時間があるのだが、とにかくこれが楽しみだった。餃子や春巻、麻婆豆腐など、店で提供される物とほぼ同じ料理が食卓に並ぶ時もあり、食べ盛りの若者には幸せな時間であった。この食事で元気とやる気をもらい、せっせと働いていた。

ある日のこと、私は昼からの勤務だったのだが、何も考えずに「赤い靴下」を履いて出勤した。格式のある店なので、店員の足元から派手な色がちらちらと見えるのはいいはずがないのだが、何故か無神経に履いていってしまった。

その店の副店長は、てきぱきと仕事をこなす凛々しい女性だった。副店長は私の靴下を見るやいなや、スッと店を抜け出して近くのコンビニに行き、黒い靴下を購入してきたそうなのだが、もちろんそれは後から知ったことだった。

副店長は私を呼び止めると、私の目をジッと見つめながら、黒い靴下を差し出して「これに履き換えてきて」と穏やかだが毅然とした口調で一言だけ言った。決してきつく叱責された訳ではないのだが、私はその眼差しと雰囲気により、一瞬で全てを理解した。状況判断があまりにも不足していた自分の愚かな行動を恥じ、情けなく思った。そして、今後この店で、自分がどのように思われていくのか不安になっていた。

しかし、私に未熟な行いがあったにもかかわらず、副店長が今までと変わらぬ態度で接してくれたおかげで、何事もなかったかのようにアルバイト生活を継続することができた。私は感謝の気持ちを込めて、これまで以上に一生懸命働こうと決意した。

このように、人と人との関係をうまく築いていくためには、注意する側と注意される側の双方が高い意識をもたないと成立しない。注意する側は、相手に思いやりの気持ちを持って穏やかにメッセージを伝えること、また、注意される側は、相手の厳しさや優しさとは関係なく、指摘されたことを真摯に受け止めて素直に改善しようとするのが大切であろう。大きな声や怒鳴り声に頼らずに意思疎通ができる世の中が、そして、戦いのない平和な世界が広がってくれることを強く願う。

雨の日だったか、接客が少なかった日に副店長と雑談をする機会があった。「大河内くんは本当に働き者ね。将来、私の娘をお嫁さんにしてもらおうかな。まだ小学生なんだけどね。」と言ってクスクスと笑った。単なる大人のジョークだったのだが、その時の私は、気の利いた返答もできず、どぎまぎしながら一緒に微笑んだ記憶がある。

その後まもなく、副店長は人事異動で店を去り、再び会うことはなかったのだが、中華料理店のまかないの味と、副店長の優しい笑顔は、今でも忘れられない。